

Modern Flap Designs for Successful Vertical GBR

垂直的な骨造成の成功のためのフラップデザイン

補綴主導型のインプラント治療がスタンダードになって久しいが、補綴的に理想的な三次元的位置にインプラント埋入するためには、水平的・垂直的な骨造成が必要となることが多い。

水平的骨造成は、予知性の高い治療とされている一方で、垂直的骨造成は、術式が煩雑で技術的な難易度が高いものとされている。垂直的に骨造成を行う場合、チタンフレーム付き非吸収性メンブレンもしくはチタンメッシュを用いる GBR 法が頻繁に採用されている。しかしながら、創の裂開による早期のメンブレンの露出は、不十分な新生骨形成、炎症、創の感染などの合併症を引き起こし、インプラント治療の妨げとなりうる。

合併症を最小限にするためには、全くテンションのないフラップによる一次閉鎖が不可欠であり、フラップデザインの選択とそのマネージメントは、垂直的骨造成の成否に大きく関わる。従来、一次創閉鎖を達成するために、粘膜骨膜弁の減張切開が用いられてきたが、近年ではより良好な治癒を得るために、優れたフラップデザインが考案されてきた。しかしながら、現在の文献では、GBR のためのフラップデザインを比較した臨床研究によるエビデンスはかなり限られている。

本講演では、演者の考案した、オトガイ孔周辺の下顎臼歯部の垂直的な骨造成のためのフラップデザインである Double-flap Incision (DFI) と Modified Periosteal Releasing Incision (MPRI) を紹介し、臨床研究データを解説しながら、私見を述べたい。また、臨床例を交えつつ、フラップマネージメントの重要なポイントと解剖学的な注意点についても解説したい。

2006年 Wonkwang 大学歯学部卒業（韓国）

2001年 - 2004年 Uisung Public Health Center 勤務

2004年 - 2005年 Yein Dental Clinic 勤務

2005年 - 2008年 タフツ大学歯学部歯周病学大学院修了

2008年 - 2010年 タフツ大学歯学部歯周科 助手

2009年～ 米国歯周病学会 歯周病・インプラント外科認定医（Diplomate）

2010年 - 2022年 タフツ大学歯学部歯周科 助教

2022年～ タフツ大学歯学部歯周科 准教授